

透析患者の足病変に対する検査室の取り組み

- 榎田美保¹⁾ 原光美¹⁾ 黒木沙織¹⁾ 濱谷理紗¹⁾ 長友美保¹⁾
森山清美¹⁾ 澤根泉¹⁾ 吉田治代¹⁾ 長友優尚²⁾

¹⁾医療法人社団紘和会平和台病院検査室 ²⁾同病院長

「はじめに」

当院で透析療養を行う患者の約9割が糖尿病患者である。そのため、透析患者の血管合併症の早期発見早期治療は非常に重要で、私たちは透析患者の足を守ることを目的に下肢超音波、ABI、SPP(皮膚灌流圧測定)による血管検査を定期的に行っている。

SPP(PAD3000 カネカメディックス)はレーザードプラを用いて測定部をカフで加圧し皮膚灌流を停止させた後、皮膚灌流が再開される灌流圧を測定し、皮膚循環動態を見る検査で、当院では重症虚血肢(CLI)の診断やハイリスク患者のスクリーニング、糖尿病足病変の重症度評価等に用いている。

平成20年からSPPを導入したことで下肢超音波とABIでは見えなかった当院の透析患者が抱える深刻な現状が分かるようになり、それに伴い私達の検査に対する姿勢が変化してきたので報告する。

「方法」

平成22年1月～23年10月31日に下肢超音波検査を実施した透析患者78名中49名に膝下動脈を主体とした血管病

変があり、うち47名にSPPを行った。

「結果」

47名中22名にSPP40mmHg以下のCLIが疑われた。治療を行ったのは、症状があった9名で、のこりの13名は無症状のため経過観察となった。そしてCLIを発症した9名中7名が検討期間中に死亡した。

「考察」

糖尿病透析患者は複数の進行した合併症を有するため、下肢虚血があっても無症状で本人はもちろん家族や患者に関わるスタッフにもそれが認識されない現状と、いったんCLIを発症すると極めて予後が悪い。という厳しい現実がうかびあがってきた。

このことから透析患者に下肢血管検査を行いCLIのリスクの高い患者を抽出し、その結果を患者や家族・医療スタッフと共有しセルフフットケアにつなげることが、透析患者のCLIの発症予防、下肢を守り生命を守ることに繋がると思われた。

連絡先：0985-24-2605